

# 特別支援学校学習指導要領

(小学部・中学部・高等部)

知的教科 目標・内容表

【生活】目標・内容表

学部		小学部		
教科の目標	具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。			
思考力、判断力、表現力等	(2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。			
学びに向かう力、人間性等	(3)自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。			
段階の目標	1段階	2段階	3段階	
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとして、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。	
内容	1段階	2段階	3段階	
ア 基本的な生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事、用便、清潔等の基本的な生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りの整理や身なりなどの基本的な生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	(ア)簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動しようとする。	(ア)必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	(ア)必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。	
	(イ)簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	(イ)身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	(イ)日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。	
イ 安全	危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	(ア)身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	(ア)身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。	(ア)日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。	
	(イ)安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	(イ)安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	(イ)安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。	
ウ 日課・予定	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	(ア)身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。	(ア)身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。	(ア)日常生活の日課・予定が分かり、おおよその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。	
	(イ)簡単な日課について、関心をもつこと。	(イ)身近な日課・予定について知ること。	(イ)日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。	
エ 遊び	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	(ア)身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。	(ア)身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとする。	(ア)日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。	
	(イ)身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	(イ)簡単なきまりのある遊びについて知ること。	(イ)きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。	

内容	1段階	2段階	3段階
オ 人との関わり	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)教師や身の回りの人に気づき、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。	(ア)身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。	(ア)身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。
	(イ)身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	(イ)身近な人との接し方などについて知ること。	(イ)身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
カ 役割	学級等の集団における役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りの集団に気づき、教師と一緒に参加しようとする。	(ア)身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする。	(ア)様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする。
	(イ)集団の中での役割に関心をもつこと。	(イ)簡単な係活動などの役割について知ること。	(イ)集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
キ 手伝い・仕事	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分から調理や製作などの様々な手伝いをするや学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。	(ア)教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	(ア)日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする。
	(イ)簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	(イ)簡単な手伝いや仕事について知ること。	(イ)手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
ク 金銭の扱い	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとする。	(ア)身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。	(ア)日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。
	(イ)金銭の扱い方などに関心をもつこと。	(イ)金銭の扱い方などを知ること。	(イ)金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
ケ きまり	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。	(ア)身近で簡単なきまりやマナーに気づき、それらを守って行動しようとする。	(ア)日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。
	(イ)簡単なきまりについて関心をもつこと。	(イ)簡単なきまりやマナーについて知ること。	(イ)簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気づき、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	(イ)身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	(イ)日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。
サ 生命・自然	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りにある生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	(イ)身近な生命や自然について知ること。	(イ)日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
シ ものの仕組みと働き	身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りにあるものの仕組みや働きに気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア)身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	(ア)日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
	(イ)身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	(イ)身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	(イ)ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。



【国語】目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部			中学部		高等部	
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。			(1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。			(2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。		(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉で伝え合う良さを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。			(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。		(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。	イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることに気付くこと。	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることに気付くこと。	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	(ア)身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	(ア)日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	(ア)社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	(ア)ア 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
			(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	(イ)発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	(イ)相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。	(イ)話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。
		(イ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(ウ)日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	(ウ)長音、拗よう音、促音、撥はつ音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	(ウ)長音、拗よう音、促音、撥はつ音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	(ウ)漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。	(ウ)文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。
	(イ)言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(ウ)身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	(エ)理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	(エ)表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	(エ)表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。
			(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	(オ)主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	(オ)接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	(オ)文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。
				(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	(カ)日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	(カ)日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
			(カ)正しい姿勢で音読すること。	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	(キ)文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	(キ)文章を音読したり、朗読したりすること。理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。
			イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア)物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。
		(イ)図書を用いた調べ方を理解し使うこと。		(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	(イ)比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	(イ)情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。		(ア) ア 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	(イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	(イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	(イ) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	(ア) 生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使うこと。	(イ) 生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。
	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知る。 ⑧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知る。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ⑧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	(ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ⑧ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	(ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ⑧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	(イ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。	(ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。 ⑧ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。
	(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知る。	(エ) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知る。	(エ) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知る。	(ウ) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	(エ) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることにつながることに気付くこと。
思考力、判断力、表現力等	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くと話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉える。	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉える。	ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことを中心に注意して聞き、話の内容を捉える。	ア 社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことを中心に捉え、その内容を捉える。
	イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。					
	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考える。	イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考える。	イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決める。	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶ。	イ 目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。
			ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考える。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考える。	ウ 話の中心が明確になるように話の構成を考える。	ウ 話の内容が明確になるように、話の構成を考える。



学部		小学部			中学部		高等部		
内容		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと		エ 挨拶をしたり、簡単な台せりふ詞などを表現したりすること。	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。	エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。				
				オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。		エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	エ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	エ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	
				カ 相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。	オ 相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。	
		書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 身近で見聞きたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	ア 見聞きたりしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	ア 相手や目的を意識して、見聞きたりしたことや経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
				イ 見聞きたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。
		イ 文字に興味をもち、書こうとすること。	イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	ウ 見聞きたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。	ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
									エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
				エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。	エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	
				オ 文などに対して感じたことを伝えること。	オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
読むこと C 読むこと 思考力、判断力、表現力等	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。	ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。	ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	ア 登場人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉えること。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
	イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。	イ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	ウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。	ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。	ウ 登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。	ウ 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
					エ 中心となる語句や文を明確にしながらかくこと。	エ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	エ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。
	エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。



【社会】目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	中学部		高等部	
教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的な事象について関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		社会的な見方・考え方を働かせ、社会的な事象について関心をもち、具体的に考察する活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまどめる技能を身に付けるようにする。		(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまどめる技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 社会的な事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。		(2) 社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、自分の生活と結び付けて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。		(3) 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。	
段階の目標	1段階	2段階	1段階	2段階
	日常生活に関わる社会的な事象が分かり、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	日常生活に関わる社会的な事象について理解し、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。	学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
知識及び技能	ア 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関りが分かるとともに、調べまどめる技能を身に付けるようにする。	ア 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまどめる技能を身に付けるようにする。	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、農業や水産業の現状、産業と経済との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまどめる技能を身に付けるようにする。	ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、工業の現状、産業と情報との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまどめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 社会的な事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	イ 社会的な事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。	イ 社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。	イ 社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願う我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の産業の発展を願う我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
ア 社会参加ときまり	<p>(ア)社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。</p> <p>㉟ 集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。</p> <p>(イ)社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。</p> <p>㉟ 社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。</p> <p>㉟ 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。</p> <p>(イ)社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。</p> <p>㉟ 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。</p>	<p>(ア)社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。</p> <p>㉟ 集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。</p> <p>(イ)社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 社会生活を営む上で大切な法やきまりがあることを理解すること。</p> <p>㉟ 社会生活を営む上で大切な法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。</p>	<p>(ア)社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。</p> <p>㉟ 社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。</p> <p>(イ)社会生活を営む上で大切な法やきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりを理解すること。</p> <p>㉟ 社会の慣習、生活に関係の深い法やきまりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。</p>
イ 公共施設と制度	<p>(ア)公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。</p> <p>㉟ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。</p> <p>(イ)制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 身近な生活に関する制度が分かること。</p> <p>㉟ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。</p> <p>㉟ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。</p> <p>(イ)制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 社会に関する基本的な制度について理解すること。</p> <p>㉟ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。</p> <p>㉟ 生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。</p> <p>(イ)制度に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。</p> <p>㉟ 国や地方公共団体の政治の取組について調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。</p> <p>㉟ 地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。</p> <p>(イ)制度に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 生活に関係の深い制度について理解すること。</p> <p>㉟ 生活に関係の深い制度について調べ、その活用を考え、表現すること。</p>
ウ 我が国の国土の自然環境と地域生活(高)(中)	<p>(ア)地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。</p> <p>㉟ 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに携わる人々の働きを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。</p> <p>㉟ 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。</p> <p>㉟ 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害が国土の環境や国民の生活に影響を及ぼすことを理解すること。</p> <p>㉞ 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。</p> <p>㉟ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉞ 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。</p> <p>㉟ 国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考え、表現すること。</p>



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
工業と生活	<p>(ア)仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。</p> <p>㉘ 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。</p> <p>(イ)身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。</p> <p>㉘ 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。</p> <p>㉘ 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。</p> <p>(イ)生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。</p> <p>㉘ 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>㉘ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。</p> <p>㉙ 生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>㉚ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の工業生産に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>㉘ 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。</p> <p>㉙ 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p> <p>㉚ 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p> <p>(イ)我が国の産業と情報との関わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 大量の情報や情報通信技術の活用は様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。</p> <p>㉘ 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。</p>
我が国の地理や歴史(中)	<p>(ア)身近な地域や市区町村(以下第2章第2節第2款において「市」という。)の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。</p> <p>㉘ 都道府県(以下第2章第2節第2款第1〔社会〕(2)内容において「県」という。)内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。</p> <p>(イ)身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知る。</p> <p>㉘ 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 自分たちの県の概要を理解すること。</p> <p>㉘ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。</p> <p>(イ)県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ること。</p> <p>㉘ 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。</p> <p>㉘ 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。</p> <p>(イ)我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。</p> <p>㉘ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。</p>	<p>(ア)我が国の国土の様子と国民生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。</p> <p>㉘ 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。</p> <p>(イ)我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。</p> <p>㉘ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。</p>
外国の様子	<p>(ア)世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 文化や風習の特徴や違いを知ること。</p> <p>㉘ そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 文化や風習の特徴や違いを理解すること。</p> <p>㉘ 人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。</p> <p>(イ)世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 人々の生活の様子を大まかに理解すること。</p> <p>㉘ 世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。</p>	<p>(ア)グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。</p> <p>㉘ 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現すること。</p>	<p>(ア)グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>㉗ 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。</p> <p>㉘ 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。</p>



【算数・数学】 目標・内容表

学部		小学部			中学部		高等部	
教科の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能		(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。			(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。		(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等		(2)日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。			(2)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		(2)日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	
学びに向かう力、人間性等		(3)数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。			(3)数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。		(3)数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学を生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
段階の目標		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	A 数量の基礎	ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。						
	A 数と計算 (1段階はB)	ア ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	ア 3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。	ア 整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	ア 整数、小数、分数及び概数の意味と表し方や四則の関係について理解するとともに、整数、小数及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	ア 整数の性質、分数の意味、文字を用いた式について理解するとともに、分数の計算についての意味や法則について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。
	B 図形 (1段階はC)	ア 身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形の観察などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能及び角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 図形の形や大きさが決まる要素や立体を構成する要素の位置関係、図形の合同や多角形の性質について理解し、図形を作図したり、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めたりする技能を身に付けるようにする。	ア 平面図形を縮小したり、拡大したりすることの意味や、立体図形の体積の求め方について理解し、縮図、拡大図を作図したり、円の面積や立方体、直方体、角柱、円柱の体積を求めたりする技能を身に付けるようにする。
C 測定 (1段階はD)	ア 身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。				

学部		小学部			中学部		高等部	
段階の目標		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	C 変化と関係					ア 二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。	ア 比例の関係や異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方、百分率について理解するとともに、目的に応じてある二つの数量の関係と別の二つの数量とを比べたり、表現したりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 比例や反比例の関係、比について理解するとともに、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について表や式を用いて表現したり、目的に応じて比で処理したりする方法についての技能を身に付けるようにする。
	D データの活用		ア 身の回りのものや身近な出来事につながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。	ア データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	ア データを円グラフや帯グラフで表す表し方や読み取り方、測定した結果を平均する方法について理解するとともに、それらの問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。	ア 量的データの分布の中心や散らばりの様子からデータの特徴を読み取る方法を理解するとともに、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 数量の基礎	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。						
	A 数と計算 (1段階はB)	イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。	イ 数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。	イ 数を構成する単位に着目して、数の表し方やその数について考えたり、扱う数の範囲を広げ、計算の仕方を見だし、筋道立てて考えたりするとともに、日常生活の問題場面を数量に着目して捉え、処理した結果を場面をもとに振り返り、解釈及び判断する力を養う。	イ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、数の比べ方や表し方を統合的に捉えて考察したり、数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を考察したりするとともに、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現する力を養う。	イ 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだしたり、目的に応じて多様な表現方法を用いながら、数の表し方や計算の仕方などを考察したりするとともに、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現する力を養う。
	B 図形 (1段階はC)	イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	イ 身の回りのものの形に関心を持ち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。	イ 身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。	イ 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。	イ 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。	イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、三角形、平行四辺形、ひし形の面積の求め方を考え、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う。	イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、円の面積や立方体、直方体、角柱、円柱の体積の求め方を考え、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う。
	C 測定 (1段階はD)	イ 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。	イ 身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。			



学部		小学部			中学部		高等部	
段階の目標		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
思考力、判断力、表現力等	C 変化と関係					イ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、変化の特徴に気付き、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。	イ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、その変化や対応の特徴を表や式を用いて考察したり、異種の二つの量の割合を用いた数量の比べ方を考察したりする力を養う。	イ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を考察したり、比例の関係を前提に二つの数量の関係を考察したりする力を養う。
	D データの活用		イ 身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。	イ 身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。	イ 身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に捉え考察したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 数量の基礎	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。						
	A 数と計算(1段階はB)	ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	B 図形(1段階はC)	ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 図形や数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	C 測定(1段階はD)	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
	C 変化と関係					ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ 数量について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	D データの活用		ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	ウ データの活用について数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。



学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 数量の基礎	ア 具体的に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。						
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。						
	イ ものともを対応させることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。						
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものともを対応させて配ること。 ㊧ 分割した絵カードを組み合わせること。 ㊨ 関連の深い絵カードを組み合わせること。						
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ ものともを関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。						

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 数と計算 (1段階はB)	ア 数えることの基礎に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 10 までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 100 までの整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 整数の性質及び整数の構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものの有無に気付くこと。 ㊧ 目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。 ㊨ 5までの範囲で数唱をすること。 ㊩ 3までの範囲で具体物を取ること。 ㊪ 対応させてものを配ること。 ㊫ 形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ㊧ ものの集まりと対応して、数詞が分かること。 ㊨ ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。 ㊩ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。 ㊪ 二つの数を比べて数の大小が分かること。 ㊫ 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ㊬ 0の意味について分かること。 ㊭ 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ㊮ 具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること。 ㊯ 10の補数が分かること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。 ㊨ 100 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。 ㊩ 数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。 ㊪ 数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。 ㊫ 具体物を分配したり等分したりすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 1000 までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ㊧ 3位数の表し方について理解すること。 ㊨ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 ㊩ 3位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。 ㊪ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ㊧ 10倍、100倍、1/10の大きさの数及びその表し方について知ること。 ㊨ 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 万の単位を知ること。 ㊧ 10倍、100倍、1000倍、の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。 ㊨ 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを理解すること。 ㊧ 約数、倍数について理解すること。
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数詞ともとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それらを日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりするとともに、日常生活に生かすこと。
						イ 整数及び小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
						(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ある数の10倍、100倍、1000倍、1/10 1/100、などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくること。	
					(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、計算などに有効に生かすこと。		





学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 数と計算 (1段階はB)			(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 日常の事象における数量の関係に着目し, 計算の意味や計算の仕方を見付け出したり, 学習や生活で生かしたりすること。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 数を適用する範囲を広げ, 計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに, 日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 数の適用範囲を広げ, 計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに, 日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 計算の仕方を考えたり, 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに, その性質を活用して, 計算を工夫したり, 計算の確かめをしたりすること。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 分数の意味や表現に着目し, 計算の仕方を考えること。
				ウ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して, の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
				(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 乗法が用いられる場合や意味について知ること。 ㉟ 乗法が用いられる場面を式に表したり, 式を読み取ったりすること。 ㊱ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ㊲ 乗法九九について知り, 1位数と1位数との乗法の計算ができること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 1位数と1位数との乗法の計算ができ, それを適切に用いること。 ㉟ 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が, 乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また, その筆算の仕方について理解すること。 ㉟ 乗法の計算が確実にでき, それを適切に用いること。 ㊱ 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。	
				(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに, 日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに, 日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㉞ 数量の関係に着目し, 計算の仕方を考えたり, 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに, その性質を活用して, 計算を工夫したり, 計算の確かめをしたりすること。	

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 数と計算 (1段階はB)					エ 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	カ 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
					(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 除法が用いられる場合や意味について理解すること。 ⑧ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ⑨ 除法と乗法との関係について理解すること。 ⑩ 除数と商が共に1位数である除法の計算ができること。 ⑪ 余りについて知り、余りの求め方が分かること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 ⑧ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 ⑨ 除法について、次の関係を理解すること。(被除数) = (除数) × (商) + (余り) ⑩ 除法に関して成り立つ性質について理解すること。	
					(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすること。	
					オ 小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	キ 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
					(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。 ⑧ 1/10の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること。 ⑧ 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。 ⑨ 小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができること。 ⑩ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。	
					(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えるとともに、それを日常生活に生かすこと。	





学部	小学部			中学部		高等部		
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
A 数と計算 (1段階はB)					(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し, 数の表し方の適用範囲を広げ, 日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し, 分数でも数の大きさを比べたり, 計算したりできるかどうかを考えるとともに, 分数を日常生活に生かすこと。 ㊧ 数を構成する単位に着目し, 大きさの等しい分数を探したり, 計算の仕方を考えたりするとともに, それを日常生活に生かすこと。		
					キ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	コ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
					(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 数量の関係を式に表したり, 式と図を関連付けたりすること。 ㊧ □などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ることを。 ㊨ □などに数を当てはめて調べることを。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 四則の混合した式や( )を用いた式について理解し, 正しく計算すること。 ㊧ 公式についての考え方を理解し, 公式を用いること。 ㊨ 数量を□, などをを用いて表し, その関係を式に表したり, □, などに数を当てはめて調べたりすること。 ㊩ 数量の関係を表す式についての理解を深めること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 数量を表す言葉や□, などの代わりに, a, xなどの文字を用いて式に表したり, 文字に数を当てはめて調べたりすること。	
					(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 数量の関係に着目し, 事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり, 式と図を関連付けて式を読んだりすること。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 問題場面の数量の關係に着目し, 数量の關係を簡潔に, また一般的に表現したり, 式の意味を読み取ったりすること。 ㊧ 二つの数量の対応や変わり方に着目し, 簡単な式で表されている関係について考察すること。	(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 問題場面の数量の關係に着目し, 数量の關係を簡潔かつ一般的に表現したり, 式の意味を読み取ったりすること。	
							サ 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
							(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。	
							(イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 数量の關係に着目し, 計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。	

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
B 図形 (1段階はC)	ア ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 形を観点に区別すること。 ㊨ 形が同じものを選ぶこと。 ㊩ 似ている二つのものを結び付けること。 ㊪ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。 ㊫ 同じもの同士の集合づくりをすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 色や形、大きさに着目して分類すること。 ㊧ 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ㊧ 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㊨ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 直線について知ること。 ㊧ 三角形や四角形について知ること。 ㊨ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ㊩ 正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。 ㊪ 直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。 ㊫ 基本的な図形が分かり、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。 ㊬ 正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。 ㊧ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。 ㊨ 基本的な図形と関連して角について知ること。 ㊩ 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊪ 円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。 ㊧ 図形の形や大きさが決まる要素について理解するとともに、図形の合同について理解すること。 ㊨ 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。 ㊩ 円と関連させて正多角形の基本的な性質を知ること。 ㊪ 円周率の意味について理解し、それを用いること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 縮図や拡大図について理解すること。 ㊧ 対称な図形について理解すること。
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。 ㊧ ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。 ㊨ ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㊧ 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ㊨ 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りのものの形を図形として捉えること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。 ㊧ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり、図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり、日常生活に生かしたりすること。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
B 図形 (1段階はC)						イ 立体図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
						(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 立方体、直方体について知ること。 ㊧ 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊨ 見取図、展開図について知ること。 ㊩ 基本的な角柱や円柱について知ること。	
						(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察し、図形の性質を見いだすとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直すこと。	
						ウ ものの位置に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 身の回りにある形の概形やおよその面積などに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
						(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものの位置の表し方について理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身の回りにある形について、その概形を捉え、およその面積などを求めること。
						(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 平面や空間における位置を決める要素に着目し、その位置を数を用いて表現する方法を考察すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて面積などの求め方を考え、それを日常生活に生かすこと。



学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
B 図形 (1段階はC)		イ 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		イ 面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ㊧ 縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ㊨ 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 傾斜をつくと角ができることを理解すること。		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 面積の単位[平方センチメートル( $\text{cm}^2$ )、平方メートル( $\text{m}^2$ )、平方キロメートル( $\text{km}^2$ )]について知り、測定の意味について理解すること。 ㊧ 正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 円の面積の計算による求め方について理解すること。
		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りにあるものの形に関心に向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 面積の単位に着目し、図形の面積について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。
					ウ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		エ 立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
					(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。 ㊧ 角の大きさの単位(度( $^\circ$ ))について知り、測定の意味について理解すること。 ㊨ 角の大きさを測定すること。		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 体積の単位(立方センチメートル( $\text{cm}^3$ )、立方メートル( $\text{m}^3$ ))について理解すること。 ㊧ 立方体及び直方体の体積の計算による求め方について理解すること。 ㊨ 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。
					(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりすること。		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えるとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。 ㊧ 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

学部	小学部			中学部		高等部		
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
C 測定 (1段階はD)	ア 身の回りにおける具体物のものつ大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにおける具体物の量の大きさに注目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ㉟ ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ㉟ 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ㊱ 長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ㉟ 身の回りにおけるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。 ㉟ 長さの単位[ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m)、キロメートル(km)] や重さの単位[グラム(g)、キログラム(kg)] について知り、測定の意味を理解すること。 ㊱ かさの単位[ミリリットル(mL)、デシリットル(dL)、リットル(L)]について知り、測定の意味を理解すること。 ㉟ 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。				
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもち、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。				
			イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				
			(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 日常生活の中で時刻を読むこと。 ㉟ 時間の単位(日、午前、午後、時、分)について知り、それらの関係を理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 時間の単位(秒)について知ること。 ㉟ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。				
		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。					





学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
C 変化と関係					イ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
					(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ることを知る。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ある二つの数量関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。 ① 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること。
					(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係を別の二つの数量の関係を比べる方を考察し、それを日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係を比べる方を考察し、それを日常生活に生かすこと。
D データの活用		ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア データを表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。 ① 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読んだりすること。 ① データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。 ② 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフで表したり、読んだりすること。 ① 円グラフや帯グラフの意味やそれらの使い方を理解すること。 ② データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知ること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 代表値の意味や求め方を理解すること。 ① 度数分布を表す表や柱状グラフの特徴及びそれらの使い方を理解すること。 ② 目的に応じてデータを収集したり、適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を理解すること。
		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心を向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。 ① 目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して読み取り、その結論について多面的に捉え考察すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
D データの活用		イ 同等と多少に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。				イ 測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 起こり得る場合に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものともとの対応させることにより、ものの同等や多少が分かること。				(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 平均の意味や求め方を理解すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの使い方を理解すること。
		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。				(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。
		ウ $\bigcirc \times$ を用いた表に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。					
		(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身の回りの出来事から $\bigcirc \times$ を用いた簡単な表を作成すること。 ㊧ 簡単な表で使用する $\bigcirc \times$ の記号の意味が分かること。					
		(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身の回りの出来事を捉え、 $\bigcirc \times$ を用いた簡単な表で表現すること。					
「数学的活動」	ア 内容の「A数量の基礎」、「B数と計算」、「C図形」及び「D測定」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形に関わる活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、算数に主体的に関わる活動	(ア) 日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動	(ア) 日常の事象から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動	(ア) 日常の事象を数理的に捉え、問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動
	(イ) 日常生活の問題を取り上げたり算数の問題を具体物などを用いて解決したりして、結果を確かめる活動	(イ) 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動	(イ) 日常生活の事象から見いだした算数の問題を、具体物、絵図、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動	(イ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動	(イ) 日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動	(イ) 数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動	(イ) 数学の学習場面から数学の問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動
		(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物などを用いて表現する活動	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や絵図、式などを用いて表現し、伝え合う活動		(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝え合う活動	(ウ) 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動	(ウ) 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動



【理 科】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部		中学部		高等部	
教科の目標		自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能		(1) 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。		(1) 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等		(2) 観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。		(2) 観察、実験などを行い、解決の方法を考える力とより妥当な考えをつくりだす力を養う。	
学びに向かう力、人間性等		(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。		(3) 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に生活に生かそうとする態度を養う。自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	
段階の目標		1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	A 生命	ア 身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 生命の連続性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	B 地球・自然	ア 太陽と地面の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	C 物質・エネルギー	ア 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 水や空気の性質についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 物の溶け方、電流の働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	ア 燃焼の仕組み、水溶液の性質、この規則性及び電気の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	A 生命	イ 身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 生命の連続性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて調べる中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	B 地球・自然	イ 太陽と地面の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 流れる水の働き、気象現象の規則性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について調べる中で、主にそれらの変化や関係について、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
	C 物質・エネルギー	イ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	イ 水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。	イ 物の溶け方、電流の働きについて調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	イ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、この規則性及び電気の性質や働きについて調べる中で、主にそれらの仕組みや性質、規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
学びに向かう力、人間性等	A 生命	ウ 身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 生命の連続性について進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	B 地球・自然	ウ 太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 流れる水の働き、気象現象の規則性について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 土地のつくりと変化、月の形の見え方と太陽との位置関係について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。
	C 物質・エネルギー	ウ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。	ウ 物の溶け方、電流の働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。	ウ 燃焼の仕組み、水溶液の性質、この規則性及び電気の性質や働きについて進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 生 命	<p>ア 身の回りの生物</p> <p>身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。</p> <p>㊧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。</p> <p>(イ) 身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気づき、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。</p>	<p>ア 人の体のつくりと運動</p> <p>人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 人の体には骨と筋肉があること。</p> <p>㊧ 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。</p> <p>(イ) 人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>ア 植物の発芽、成長、結実</p> <p>植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。</p> <p>㊧ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。</p> <p>㊨ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。</p> <p>㊩ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。</p> <p>(イ) 植物の育ち方について調べる中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p>	<p>ア 人の体のつくりと働き</p> <p>人や他の動物について、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。</p> <p>㊧ 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。</p> <p>㊨ 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。</p> <p>㊩ 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。</p> <p>(イ) 人や他の動物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
		<p>イ 季節と生物</p> <p>身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</p> <p>㊧ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。</p> <p>(イ) 身近な動物の活動や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>イ 動物の誕生</p> <p>動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。</p> <p>(イ) 人は、母体内で成長して生まれること。</p>	<p>イ 植物の養分と水の通り道</p> <p>植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。</p> <p>㊧ 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。</p> <p>(イ) 植物の体のつくりと働きについて調べる中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
				<p>ウ 生物と環境</p> <p>生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。</p> <p>㊧ 生物の間には、食う食われるという関係があること。</p> <p>㊨ 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。</p> <p>(イ) 生物と環境について調べる中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
B 地球・自然	<p>ア 太陽と地面の様子 太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。 ㊧ 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。 (イ) 日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現すること。</p>	<p>ア 雨水の行方と地面の様子 雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。 ㊧ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。 (イ) 雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさととの関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>ア 流れる水の働きと土地の変化 流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 ㊧ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。 ㊨ 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。 (イ) 流れる水の働きについて調べる中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p>	<p>ア 土地のつくりと変化 土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 土地は、礫れき、砂、泥、火山灰などからできており、層をつくって広がっているものがあること。また、層には化石が含まれているものがあること。 ㊧ 地層は、流れる水の働きや火山の噴火によってできること。 ㊨ 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。 (イ) 土地のつくりと変化について調べる中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
	<p>イ 天気の様子 天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。 ㊧ 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。 (イ) 天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>イ 天気の変化 天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 天気の変化は、雲の量や動きと関係があること。 ㊧ 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。 (イ) 天気の変化の仕方について調べる中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p>		
	<p>ウ 月と星 月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。 ㊧ 空には、明るさや色の違う星があること。 (イ) 月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>			<p>イ 月と太陽 月の形の見え方について、月と太陽の位置に着目して、それらの位置関係を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 月の輝いている側に太陽があること。また、月の形の見え方は、太陽と月との位置関係によって変わること。 (イ) 月の形の見え方について調べる中で、月の位置や形と太陽の位置との関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
C 物質・エネルギー	<p>ア 物と重さ</p> <p>物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。</p> <p>㊧ 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。</p> <p>(イ) 物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気づき、物の性質についての疑問をもち、表現すること。</p>	<p>ア 水や空気と温度</p> <p>水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。</p> <p>㊧ 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。</p> <p>(イ) 水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。</p>	<p>ア 物の溶け方</p> <p>物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。</p> <p>㊧ 物が水に溶ける量には、限度があること。</p> <p>㊨ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。</p> <p>また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。</p> <p>(イ) 物の溶け方について調べる中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p>	<p>ア 燃焼の仕組み</p> <p>燃焼の仕組みについて、空気の変化に着目して、物の燃え方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。</p> <p>(イ) 燃焼の仕組みについて調べる中で、物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
	<p>イ 風やゴムの力の働き</p> <p>風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。</p> <p>㊧ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。</p> <p>(イ) 風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。</p>		<p>イ 電流の働き</p> <p>電流の働きについて、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わること。</p> <p>(イ) 電流の働きについて調べる中で、電流の大きさや向きと乾電池につないだ物の様子との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</p>	<p>イ 水溶液の性質</p> <p>水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。</p> <p>㊧ 水溶液には、気体が溶けているものがあること。</p> <p>㊨ 水溶液には、金属を変化させるものがあること。</p> <p>(イ) 水溶液の性質や働きについて調べる中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>
	<p>ウ 光や音の性質</p> <p>光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 日光は直進すること。</p> <p>㊧ 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。</p> <p>㊨ 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。</p> <p>(イ) 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。</p>			<p>ウ てこの規則性</p> <p>てこの規則性について、力を加える位置や力の大きさに着目して、てこの働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 力を加える位置や力の大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わり、てこがつり合うときにはそれらの間に規則性があること。</p> <p>㊧ 身の回りには、てこの規則性を利用した道具があること。</p> <p>(イ) てこの規則性について調べる中で、力を加える位置や力の大きさとてこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
C 物質・エネルギー	<p>エ 磁石の性質</p> <p>磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。</p> <p>㊧ 磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。</p> <p>(イ) 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。</p>			
	<p>オ 電気の通り道</p> <p>電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。</p> <p>㊧ 電気を通す物と通さない物があること。</p> <p>(イ) 乾電池と豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。</p>			<p>エ 電気の利用</p> <p>発電や蓄電、電気の変換について、電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 電気は、作りだしたり蓄えたりすることができること。</p> <p>㊧ 電気は、光、音、熱、運動などに変換することができること。</p> <p>㊨ 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があること。</p> <p>(イ) 電気の性質や働きについて調べる中で、電気の量と働きとの関係、発電や蓄電、電気の変換について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>

【音楽】目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部			中学部		高等部	
教科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。			(1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。			(2) 音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。		(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。			(3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。		(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	ア 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	ア 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしていく態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしていく態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしていく態度を養う。	ウ 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしていく態度を養う。	ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしていく態度を養う。	ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 表現	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。	(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
	(イ)表現する音や音楽に気付くこと。	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の特徴的なリズムと旋律 ㉘ 曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㉘ 曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ㉘ 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲名や曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ㉘ 声の音色や響きと発声との関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり ㉘ 声の音色や響き及び言葉の特性と発声との関わり
	(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 音や音楽を感じて体を動かす技能 ㉘ 音や音楽を感じて楽器の音を出す技能 ㉙ 音や音楽を感じて声を出す技能	(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範唱を聴いて、曲の一部を模唱する技能 ㉘ 自分の歌声に注意を向けて歌う技能 ㉙ 教師や友達と一緒に歌う技能	(ウ)思いに合った歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能 ㉘ 自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ㉙ 教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能	(ウ)思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能 ㉘ 発声の仕方に気を付けて歌う技能 ㉙ 友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能	(ウ)思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 歌詞やリズム、音の高さ等を意識して歌う技能 ㉘ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う技能 ㉙ 独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする技能	(ウ)創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能 ㉘ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 ㉙ 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能	(ウ)創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 ㉘ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能
		イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。	(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。	(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。	(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。	(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。	(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
		(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 拍や曲の特徴的なリズム ㉘ 楽器の音色の違い	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ リズム、速度や強弱の違い ㉘ 演奏の仕方による楽器の音色の違い	(イ)次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ㉘ 楽器の音色と全体の響きとの関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 多様な楽器の音色と演奏の仕方との関わり	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり



学部	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 表現		(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範奏を聴き、模倣をして演奏する技能 ㉘ 身近な打楽器を演奏する技能 ㉙ 教師や友達と一緒に演奏する技能	(ウ)思いに合った表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能 ㉘ 身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ㉙ 教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能	(ウ)思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能 ㉘ 音色や響きに気を付けて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ㉙ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能	(ウ)思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して演奏する技能 ㉘ 打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能 ㉙ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能	(ウ)創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 ㉘ 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 ㉙ 各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能	(ウ)創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 ㉘ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能
		ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。 ㉗ 音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。 ㉘ 音や音楽で表現することについて思いをもつこと。	(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。 ㉗ 音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ㉘ どのように音を音楽にしていかにして思いをもつこと。	(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。 ㉗ 音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。 ㉘ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。 ㉗ 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 ㉘ 音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	(ア)創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。	(ア)創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
		(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ㉗ 声や身の回りの様々な音の特徴 ㉘ 音のつなげ方の特徴	(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ㉗ 声や身の回りの様々な音の特徴 ㉘ 簡単なリズム・パターンの特徴	(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くこと。 ㉗ いろいろな音の響きの特徴 ㉘ リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴	(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ㉗ いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴 ㉘ リズム・パターンや短い旋律のつなげ方や重ね方の特徴	(イ)次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ㉗ いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴 ㉘ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴	(イ)次の㉗及び㉘について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 ㉗ 音のつながり方の特徴 ㉘ 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
	(ウ)気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 音を選んだりつなげたりして、表現する技能 ㉘ 教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能	(ウ)気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 音を選んだりつなげたりして表現する技能 ㉘ 教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能	(ウ)発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 ㉘ 音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる技能	(ウ)発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗ 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 ㉘ 音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる技能	(ウ)創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。	(ウ)創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。	

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 表現		エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。
		(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 拍や曲の特徴的なリズム ㉘ 曲名と動きとの関わり	(イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて気付くこと。 ㉗ 曲のリズム、速度、旋律 ㉘ 曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部	(イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ㉘ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり	(イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 曲名や歌詞と体の動きとの関わり	(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 曲想と体の動きとの関わり	(イ) 次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想と音楽の構造との関わり ㉘ 曲想や音楽の構造と体の動きとの関わり
		(ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ㉘ 音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能 ㉙ 教師や友達と一緒に体を動かす技能	(ウ) 思いに合った体の動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能 ㉘ 音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能 ㉙ 教師や友達と一緒に体を使って表現する技能	(ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする技能 ㉘ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせる技能 ㉙ 友達と動きを合わせて表現する技能	(ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能 ㉘ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせる技能 ㉙ 友達と動きを相談して、合わせて表現する技能	(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ㉘ 設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせる技能 ㉙ 友達と動きを組み合わせる技能	(ウ) 創意工夫を生かした表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能 ㉘ 設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能 ㉙ 友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
B 鑑賞	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする事。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。	(ア)鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。
	(イ)聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	(イ)身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	(イ)曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。	(イ)曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。	(イ)曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。	(イ)曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。	(イ)次の㉗及び㉘について理解すること。 ㉗ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わり ㉘ 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史などとの関わり
「共通事項」	(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			(1)1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		(1)1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。			ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。		ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。	
	イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。			イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。		イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。	



【図画工作・美術】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部			中学部		高等部	
教科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する。			(1) 造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。		(1) 造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。			(2) 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。		(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。			(3) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。		(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	ア 造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	ア 造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする	イ 表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	イ 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。	ウ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 表現	ア 線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかき、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくりたりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)材料などから、表したいことを思い付くこと。	(ア)材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	(ア)材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。	(ア)経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	(ア)経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	(ア)対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	(ア)対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
	(イ)身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどすること。	(イ)身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくりすること。	(イ)様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくりすること。	(イ)材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	(イ)材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	(イ)材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	(イ)材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。
B 鑑賞	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)身の回りにあるものなどを見ること。	(ア)身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア)自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア)自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア)自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。	(ア)美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(ア)美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
				(イ)表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を広げること。	(イ)表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。	(イ)生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(イ)生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
「共通事項」	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア)自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。	(ア)自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。	(ア)自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。	(ア)形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。	(ア)形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。	(ア)形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	(ア)形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。
	(イ)形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ)形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ)形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ)造形的な特徴などからイメージをもつこと。	(イ)造形的な特徴などからイメージを捉えること。	(イ)造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	(イ)造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。



【体 育】【保健体育】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部			中学部		高等部	
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1)遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。			(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。		(1)各種の運動の特性に応じた技能等並びに個人生活及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2)遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。			(2)各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。		(2)各種の運動や健康・安全についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて仲間と思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3)遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。			(3)生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。		(3)生涯にわたって継続して運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
知識及び技能	ア 教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	ア 各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	イ 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	イ 基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようしたり、健康に必要な事柄をしようしたりする態度を養う。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようしたり、健康に必要な事柄をしようしたりする態度を養う。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。	ウ 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。	ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。	ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動をする態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。	ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に自主的に取り組む態度を養う。



学部	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
A 体づくり運動	ア 教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすること。	ア 基本的な体づくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともにその行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と積極的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりすること。	ア 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わい、その行い方や方法の理解を深めるとともに、仲間と自主的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりするとともに、それらを組み合わせること。
	イ 手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 基本的な体づくり運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、体づくり運動遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく基本的な体づくり運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動の多様な経験を通して、きまりを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
B 器械運動	ア 教師と一緒に、器械・器具を使って楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を使っての基本的な運動をすること。	ア 器械・器具を使っての基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	ア 器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技を身に付けること。	ア 器械運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技を身に付け、演技すること。
	イ 器械・器具を使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 器械・器具を使っての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 器械・器具を使っての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 器械運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使っての遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、器械・器具を使っての基本的な運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく器械・器具を使っての基本的な運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。	ウ 器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 器械運動の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や器械・器具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。

学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
C 陸上運動	ア 教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。	ア 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	ア 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けると。	ア 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。	ア 陸上競技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付けること。	ア 陸上競技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けること。
	イ 走ったり、跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 陸上競技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、走・跳の運動遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、走・跳の基本的な運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく走・跳の基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。	ウ 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 陸上競技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
D 水泳運動	ア 教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しむこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく水の中での基本的な運動をすること。	ア 水の中での基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	ア 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。	ア 水泳運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。	ア 水泳の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに泳法を身に付けること。	ア 水泳の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた泳法を身に付けること。
	イ 水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 水泳運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 水泳についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 水泳についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、水遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、水の中での基本的な運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく水の中での基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。	ウ 初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 水泳運動に積極的に取り組み、きまりなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 水泳の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 水泳の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。

学部	小学部			中学部		高等部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
E 球技	ア 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	ア ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	ア 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ア 球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うこと。
	イ ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	イ 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。	ウ 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。
F 武道				ア 武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	ア 武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	ア 武道の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	ア 武道の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じた攻防を展開すること。
				イ 武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	イ 武道についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	イ 武道についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。
				ウ 武道に進んで取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ウ 武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。	ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすること。	ウ 武道の多様な経験を通して、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動をすること。



学部	小学部			中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
G ダンス	ア 教師と一緒に、音楽の流れ ている場所で楽しく体を動かす こと。	ア 教師の支援を受けながら、 音楽に合わせて楽しく表現運 動をすること。	ア 基本的な表現運動の楽しさ を感じ、その行い方を知り、基 本的な動きを身に付け、表現し たり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びに触 れ、その行い方が分かり、基本 的な動きや技能を身に付け、 表現したり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを味 わい、その行い方を理解し、基 本的な技能を身に付け、表現 したり踊ったりすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを味 わい、その行い方を理解すると ともに、技能を身に付け、表現 や踊りを通した交流をすること。	ア ダンスの楽しさや喜びを深 く味わい、その行い方の理解を 深めるとともに、目的に応じた 技能を身に付け、表現や踊り を通した交流や発表をすること。
	イ 音楽の流れている場所 で体を動かすことの楽しさや心地 よさを表現すること。	イ 基本的な表現運動に慣れ、 その楽しさや感じたことを表現 すること。	イ 基本的な表現運動の楽し み方を工夫するとともに、考え たことや気付いたことなどを他 者に伝えること。	イ ダンスについての自分の課 題を見付け、その解決のため の活動を考えたり、工夫したり したことを他者に伝えること。	イ ダンスについての自分やグ ループの課題を見付け、その 解決のために友達と考えたり、 工夫したりしたことを他者に伝 えること。	イ ダンスについての自他の課 題を発見し、その解決のため の方策を工夫したり、仲間と考 えたりしたことを他者に伝える こと。	イ ダンスについての自他の課 題を発見し、よりよい解決のため に仲間と思考し判断したこと を、目的や状況に応じて他者 に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従っ て、表現遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達 とともに安全に楽しく、基本的 な表現運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友 達と仲よく楽しく表現運動をし たり、場や用具の安全に気を 付けたりしようとするこ と。	ウ ダンスに進んで取り組み、 友達の動きを認め協力したり、 場や用具の安全に留意したりし 、最後まで楽しく運動をする こと。	ウ ダンスに積極的に取り組 み、友達のよさを認め助け合っ たり、場や用具の安全に留意 したりし、自己の力を発揮して 運動をすること。	ウ ダンスの多様な経験を通 して、仲間の表現を認め助け 合ったり、場や用具の安全を確 保したりし、自主的に運動をす ること。	ウ ダンスの多様な経験を通 して、一人一人の表現や役割を 認め助け合ったり、場や用具 の安全を確保したりし、見通し をもって自主的に運動をすること。
H 体育理論						ア 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義に気付くこと。	ア 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義に関する基礎的な知識を 身に付けること。
						イ 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義についての課題を発見 し、その解決のための方策を 工夫したり、仲間と考えたりし たことを他者に伝えること。	イ 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義についての課題を発見 し、よりよい解決のために仲間 と思考し判断したことを、目的 や状況に応じて他者に伝える こと。
						ウ 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義についての学習に積極的 に取り組むこと。	ウ 運動やスポーツの多様性、 効果と学び方、安全な行い方 及び文化としてのスポーツの 意義についての学習に自主的 に取り組むこと。
H 保健	ア 教師と一緒に、うがいなど の健康な生活に必要な事柄を すること。	ア 教師の支援を受けながら、 健康な生活に必要な事柄をす ること。	ア 健康や身体の変化につい て知り、健康な生活に必要な 事柄に関する基本的な知識や 技能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防 止、病気の予防などの仕方が 分かり、基本的な知識及び技 能を身に付けること。	ア 体の発育・発達やけがの防 止、病気の予防などの仕方につ いて理解し、基本的な技能を 身に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の 防止及び疾病の予防等を理解 するとともに、健康で安全な個 人生活を営むための技能を身 に付けること。	ア 心身の発育・発達、傷害の 防止及び疾病の予防等の理解 を深めるとともに、健康で安全 な個人生活及び社会生活を営 むための目的に応じた技能を 身に付けること。
	イ 健康な生活に必要な事柄 に気づき、教師に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄 に慣れ、感じたことを他者に伝 えること。	イ 健康な生活に必要な事柄 について工夫するとともに、考 えたことや気付いたことなどを 他者に伝えること。	イ 自分の健康・安全について の課題を見付け、その解決の ための活動を考えたり、工夫し たりしたことを他者に伝えるこ と。	イ 自分やグループの健康・安 全についての課題を見付け、 その解決のために友達と考え たり、工夫したりしたことを他 者に伝えること。	イ 健康・安全に関わる自他の 課題を発見し、その解決のため の方策を工夫したり、仲間と 考えたりしたことを他者に伝 えること。	イ 健康・安全に関わる自他の 課題を発見し、よりよい解決の ために仲間と思考し判断したこ とを、目的や状況に応じて他者 に伝えること。

【職業・家庭】【職業】【家庭】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	中学部		高等部	
教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		【職業科】職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【家庭科】生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		【職業科】 (1) 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。 【家庭科】 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		【職業科】 (2) 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。 【家庭科】 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		【職業科】 (3) よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。 【家庭科】 家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
段階の目標	職業分野		職業科	
	1段階	2段階	1段階	2段階
	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 職業生活	ア 働くことの意義 働くことに興味をもち、作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 働くことの意義 働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 勤労の意義 勤労に対する意欲や関心を高め、他者と協働して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 働くことの目的などを知ること。	(ア) 働くことの目的などを理解すること。	(ア) 勤労の意義を理解すること。	(ア) ア 勤労の意義について理解を深めること。
	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。	(イ) 意欲や見通しをもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。	(イ) 目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現すること。
	(ウ) 作業や実習等で達成感を得ること。	(ウ) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。	(ウ) 作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組むこと。	(ウ) 作業や実習等を通して貢献する喜びを体得し、計画性をもって主体的に取り組むこと。
	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ㊨ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ㊩ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ㊪ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㊨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㊩ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㊪ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを身に付けること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。 ㊨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。 ㊩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。 ㊪ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを高め、状況に応じて作業すること。	(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㊦ 職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること。 ㊧ 職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。 ㊨ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。 ㊩ 使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。 ㊪ 作業の確実性や持続性、巧緻性などを高め、状況に応じて作業し、習熟すること。
	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ㊧ 作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ㊨ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㊧ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㊨ 職業生活に必要な健康管理について考えること。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ㊧ 生産や生育活動等に関わる技術について考えること。 ㊨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。 ㊩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。	(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㊦ 作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。 ㊧ 生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。 ㊨ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。 ㊩ 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考えること。



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
B 情報機器の活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。	ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。
	イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。	イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。	イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。
C 産業現場等における実習	実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。	ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。	ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。
	イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。	イ 産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。	イ 産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。

学部	中学部		高等部	
段階の目標	家庭分野		家庭科	
	1段階	2段階	1段階	2段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 家族・家庭生活	ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。	(ア) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。	(ア) 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。	(ア) 自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。
	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	イ 家庭生活と役割 家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族や地域の人々などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 家庭における役割や地域との関わりについて関心を持ち、知ること。	(ア) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。	(ア) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。	(ア) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。
	(イ) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家庭と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(ア) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。	(ア) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。	(ア) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。	(ア) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。	
(イ) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	(イ) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。	(イ) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。	(イ) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。	

学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
A 家族・家庭生活	エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。	(ア) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。	(ア) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。	(ア) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。
	(イ) 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 家族との触れ合いや地域生活に関心を持ち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
B 衣食住の生活	ア 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 食事の役割 食事の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 必要な栄養を満たす食事 自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 健康な生活と食事の役割について知ること。	(ア) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。	(ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。	(ア) 自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。
	(イ) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	(イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	(イ) 健康によい食習慣について考え、工夫すること。	(イ) 一日分の献立について考え、工夫すること。
		イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
		(ア) 身体に必要な栄養について関心を持ち、理解し、実践すること。		
		(イ) バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。		
	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(ア) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。	(ア) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。	(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。	(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。	
(イ) 簡単な調理計画について考えること。	(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。	(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。	



学部	中学部		高等部	
内容	1段階	2段階	1段階	2段階
B 衣食住の生活	ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 衣服の選択 衣服の選択に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする事	(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。	(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。	(ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。
	(イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	(イ) 衣服の選択について考え、工夫すること。	(イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。
			エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			(ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。	(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。
			(イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。	(イ) 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。
C 消費生活・環境	ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。	(ア) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 ⑧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 ⑧ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。
	(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	(イ) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。	(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。	(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。
	イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。	(ア) 身近な生活の中で環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。
	(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、表現すること。	(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。

【外国語活動・外国語】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部(外国語活動)	中学部(外国語)	高等部(外国語)	
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心を持ち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
段階の目標			1段階	2段階
知識及び技能			ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すことを中心とした実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等			イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似ながら読んだり、外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに向かう力、人間性等			ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
知識及び技能	(1) 英語の特徴等に関する事項 具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。	ア 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと		
		(ア) 英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとする事。	(ア) 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ⑦ 英語の音声を聞いて話したり、文字を見て読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。	ア 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ⑦ 英語の音声を聞いて話したり、簡単な語彙などを読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。
		(イ) 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取る事。	① 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。	① 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。
		(ウ) 基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わる事を感じ取る事。	② 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。	② 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。
	イ 日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。	イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。		
	(ア) 英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 (イ) 外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。	(ア) 体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 (イ) 対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとする事。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(2) 情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする事。	ア 日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。	(ア) 簡単な事柄について、伝えようとした内容を整理した上で、簡単な語句などを用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。	(ア) 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと。
	イ 身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする事。	イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちや考えなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。	(イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。	(イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。



学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
思考力、判断力、表現力等	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。
	ア 聞くこと (ア) 既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。	ア 聞くこと (ア) 文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動。	ア 聞くこと ㊦ 自分に関する簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	ア 聞くこと ㊦ 自分ことや学校生活など身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
	(イ) 既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。	(イ) 身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、表示などを参考にしながら具体的な情報を聞き取る活動。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。
		(ウ) 挨拶や簡単な指示に応じる活動。		㊧ 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。
	イ 話すこと (ア) 既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。	イ 話すこと[発表] (ア) 自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。	イ 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めて自己紹介をする活動。	イ 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを話す活動。
	(イ) 既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。	(イ) 身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。		
		ウ 話すこと[やり取り] (ア) 簡単な挨拶をし合う活動。	ウ 話すこと[やり取り] ㊦ 挨拶を交わしたり、簡単な指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	ウ 話すこと[やり取り] ㊦ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
		(イ) 自分のことについて、真体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。		
		(ウ) ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。		
		エ 書くこと (ア) 身近な事物を表す文字を書く活動。	エ 書くこと ㊦ 活字体の大文字、小文字を区別して書く活動。	エ 書くこと ㊦ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。
	(イ) 例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。	① 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。	① 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。	
		㊧ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。		

学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
思考力、判断力、表現力等		オ 読むこと (ア) 身の回りで使われている文字や単語を見付ける活動。	オ 読むこと ㉞ 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。	オ 読むこと ㉞ 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
		(イ) 日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。	① 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を発音する活動。	① 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを、挿絵がある本などの中から識別する活動。
	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	
	ア 言語の使用場面の例 (ア) 児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ㉞ 歌やダンスを含む遊び ① 家庭での生活 ㉞ 学校での学習や活動 など	ア 言語の使用場面の例 (ア) 特有の表現がよく使われる場面 ㉞ 挨拶をする ① 自己紹介をする ㉞ 買物をする ㉞ 食事をする など	ア 言語の使用場面の例 ㉞ 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 ・旅行 など	
	(イ) 特有の表現がよく使われる場面 ㉞ 挨拶 ① 自己紹介 など	(イ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ㉞ ゲーム ① 歌やダンス ㉞ 学校での学習や活動 ㉞ 家庭での生活 など	① 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ・学校での学習や活動 ・家庭での生活 ・地域での生活 など	
	イ 言語の働きの例 (ア) コミュニケーションを円滑にする ㉞ 挨拶をする	イ 言語の働きの例 (ア) コミュニケーションを円滑にする ㉞ 挨拶をする ① 相づちを打つ	イ 言語の働きの例 ㉞ コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ・呼び掛ける ・相づちを打つ ・聞き直す など	
	(イ) 気持ちを伝える ㉞ 礼を言う など	(イ) 気持ちを伝える ㉞ 礼を言う ① 褒める	① 気持ちを伝える ・礼を言う ・褒める ・謝る など	
		(ウ) 相手の行動を促す ㉞ 質問する	㉞ 事実・情報を伝える ・説明する ・報告する ・発表する など	
			㉞ 考えや意図を伝える ・意見を言う ・賛成する ・承諾する ・断る など	
			㉞ 相手の行動を促す ・質問する ・依頼する ・命令する など	
その他の外国語		その他の外国語については、外国語の2の内容の[英語]に準じて指導を行うものとする。	その他の外国語については、[英語]に示す内容に準じて指導を行うものとする。	その他の外国語については、[英語]に示す内容に準じて指導を行うものとする。

【情報】目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	高等部	
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、身近にある情報機器の操作の習得を図りながら、問題の解決を行う学習活動を通して、問題を知り、問題の解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 身近にある情報と情報技術及びこれらを活用して問題を知り、問題を解決する方法について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解できるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。	
段階の目標	1段階	2段階
知識及び技能	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について知り、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて知る。	ア 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピュータやデータの活用について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解する。
思考力、判断力、表現力等	イ 身近な事象を報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を活用する力を養う。	イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 身近にある情報や情報技術を活用するとともに、情報社会に関わろうとする態度を養う。	ウ 身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。
内容	1段階	2段階
A 情報社会の問題解決	身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法に着目し、解決に向けた活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法に着目し、解決に向けた活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
	(ア) 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを知り、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。	(ア) 身近にある情報やメディアの基本的な特性及びコンピュータ等の情報機器の基本的な用途、操作方法及び仕組みを踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法を身に付けること。
	(イ) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて知ること。	(イ) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。
	(ウ) 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について知ること。	(ウ) 身近にある情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について基本的な理解をすること。
	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
	(ア) 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。	(ア) 目的や状況に応じて、身近にある情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を知り、問題を解決する方法について考えること。
	(イ) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて考えること。	(イ) 情報に関する身近で基本的な、法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を捉え、考えること。
(ウ) 身近にある情報や情報技術の活用について考えること。	(ウ) 身近にある情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の在り方について考えること。	



内容	1段階	2段階
B コミュニケーションと情報デザイン	身近なメディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近なメディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
	(ア) 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて知ること。	(ア) 身近なメディアの基本的な特性とコミュニケーション手段の基本的な特徴について、その変遷を踏まえて理解すること。
	(イ) 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を知ること。	(イ) 身近にある情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。
	(ウ) 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を理解し、表現する基礎的な技能を身に付けること。	(ウ) 身近にある情報デザインから、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法を理解し表現する基礎的な技能を身に付けること。
	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
	(ア) 身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を考えること。	(ア) 身近なメディアとコミュニケーション手段の関係を捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。
	(イ) コミュニケーションの目的に合わせて、必要な情報が伝わるような情報デザインを考えること。	(イ) コミュニケーションの目的に合わせて、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。
C 情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目して、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを利用し、問題を知り、問題の解決に向けた活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目して、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を知り、問題の解決に向けた活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
	(ア) 情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について知ること。	(ア) 情報通信ネットワークの基本的な仕組みや情報セキュリティを確保するための基本的な方法について理解すること。
	(イ) 身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について知ること。	(イ) 身近なデータを蓄積、管理、提供する基本的な方法、情報通信ネットワークを介した情報システムによるサービスの提供に関する基本的な仕組みと特徴について理解すること。
	(ウ) データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理する基本的な方法について知り、基礎的な技能を身に付けること。	(ウ) データを表現、蓄積するための基本的な表し方と、データを収集、整理、分析する基本的な方法について理解し、基礎的な技能を身に付けること。
	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
	(ア) 情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。	(ア) 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける情報セキュリティを確保する基本的な方法について考えること。
	(イ) 情報システムが提供するサービスの利用について考えること。	(イ) 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。
(ウ) データの収集、整理及び結果の表現の基本的な方法を適切に選択し、実行すること。	(ウ) データの収集、整理、分析及び結果の表現の基本的な方法を適切に選択し、実行し、振り返り、表現を見直すこと。	